

「十七字のふれあい事業」

「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」

**応募者100万人突破記念  
歴代最優秀賞作品集**



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

福島県教育委員会

「十七字のふれあい事業」最優秀賞作品

年度	市町村	作品 1	作品 2	二人の関係
H14	伊達市	ぼくんちも つばめみたいな かぞくだね	いつまでも かぞくなかよく いっしょだよ	子と母
	小野町	じいちゃんが先生になる 夏休み	喜々として 孫の師となる 夏休み	孫と祖父
	会津若松市	上手でしょ かなづちトントン とくだよ	上手だよ やがてはきっと 大工さん	子と母
H15	福島市	うれしいな はっばのすーぷで おままごと	ぷーんぷん みどりのかおりが いいですね	子どもと 地域の大入
	桑折町	キーを打つ 私は両手 父片手	もどかしい パソコンにらみ 娘呼ぶ	子と父
	原町市	鮎を焼く だけの炭火をおこしけり	鮎釣りの 斜め歩きを子が真似る	子と父
H16	檜葉町	おふろばで やっとおぼえた あいうえお	長風呂に 付き合わされて 赤ら顔	孫と祖父
	伊南村	たのしいな フキのコップに ササのフネ	山遊び ばあのちえで 水をくみ	孫と祖母
	白河市	お母さん 覚えた言葉 すぐつかう	子と会話 したくて使う 流行語	子と母
H17	郡山市	ひらおよぎ れんしゅうしても むずかしい	一、二、の三、 布団で親子の 平泳ぎ	子と母
	須賀川市	このおいも ぼくのかおより 大きいぞ	太陽と 家族総出の おいもほり	孫と祖母
	下郷町	木地づくり 夏と一緒に あつくなる	汗ぬぐい 娘に手を添え 木地を挽く	子と父
	二本松市	かぶとむし パパととりたい なつによる	虫採りへ 電気の下へ 父本気	子と父
	二本松市	魚つり 気の合う二人 父とぼく	久しぶり 話せる時間と 魚つり	子と父
H18	矢祭町	初登山 父の背中を 追いかける	景色より 一緒にうれしい 初登山	子と父
	大熊町	亡き祖母を 花火でパッと おでむかえ	迎え火で 亡き祖母 偲び 花火する	子と母
	浪江町	成長期 母の服着て 背伸びする	気がつけば 娘の服着て はしゃぐ母	子と母
	会津若松市	ストレスを ボールに込めて 投げるぼく	思春期の 心もキャッチ できるかな	子と母
	柳津町	竿ふって 大物ねらう 岩魚つり	竿見つめ 親は子供の 顔眺め	子と母
H19	南会津町	目の前は 拍手喝采 晴舞台	三番叟 舞台の我が子 堂々と	子と母
	川内村	前よりも 母が小さく 見える夏	“背くらべ” やたらしたがる 末娘	子と母
	会津坂下町	にわか雨 町を冷やして 遠ざかる	雨やどり 子とあおぐ空 虹かかる	子と父
	郡山市	「大好き！」と 触れ合う肌の 温かさ	抱きとめた 腕に確かな 歳月が	子と母
	飯館村	うどんふむ 今日だけ私は おすもうさん	まかせてね コシを出すため 母出番	子と母
H20	いわき市	新発見 ぼくのケータイ 糸でんわ	子とあそび 会話がはずむ 糸でんわ	子と母
	鮫川村	目をあけて プールの中で 泳げたよ	沢山の はじめてを知る 夏休み	子と母
	福島市	泣きやまぬ 弟だいて 助けよぶ	子守りする 小五の姉の たのもしさ	子と母
	郡山市	秋の精 葉うらにかくれて 出番待ち	うっすらと 染めにし楓 秋きぬと	子と母
	いわき市	皿洗い 母の手際に 年季の差	皿洗い 並んでわかる 身長差	子と母
H21	郡山市	あきらめず とうとうできた さかあがり	あかね空 額に汗し さか上がり	子と父
	須賀川市	図かん持ち 母とさがした 夏星座	時忘れ 流星を待つ 母娘	子と母
	白河市	ふしぎだね 木かげのかげも 三日月だ	日食で 子どもも静まる 暗さなり	子と母
	会津美里町	伝統の 甚句にあわせ 初太鼓	孫のうつ やぐら太鼓で 盆おどり	孫と祖母
	相馬市	今だけは 侍気取って 陣羽織	お上がりに 娘へ託す 帰り馬	子と父
H22	福島市	お手つだい ひいばあちゃんと くさむしり	ひまごらに 手足をかりて 水はこぶ	曾孫と曾祖母
	小野町	おふろ場で パパとわたしの コンサート	風呂場にて 我が娘と奏でる ハーモニー	子と父
	泉崎村	あさがおが ぼくのせのびを おいこした	朝顔の 簾で涼む 子とともに	子と母
	南相馬市	父とボク 馬上の会話 武者言葉	野馬原に 親子揃いし 晴れ姿	子と父
	いわき市	旅行先 父と一緒に ひとつぶろ	子の背中 広さおどろく 露天風呂	子と父
H23	福島市	馬鈴薯を 手に持つ孫の 誇らしげ	ばあちゃんと 植えたジャガイモ 百倍に	祖母と孫
	棚倉町	オレの部屋 関係者以外 立入禁止	はいるわよ 私がいちばん 関係者	子と母
	相馬市	塩むすび にぎり続けた 手が赤い	被災地で 心にしみる 塩むすび	子と父
	いわき市	久々に 肩もみ券を使う 母	あと二枚 いつ使おうか 宝物	子と母
	いわき市	たくさんの 支援に誓う 恩返し	災害で 無くした物と 得た心	母と子

年度	市町村	作品 1	作品 2	二人の関係
H24	二本松市	平泳ぎ お父さんまであと3秒	本気出し 勝った翌日 筋肉痛	子と父
	須賀川市	ねむくなる ぼかぼかママの うでまくら	ほっとする むすめのねがお うでのなか	子と母
	田村市	母さんの えがおが見たくて フロそうじ	走り寄る 息子の頭に 泡ひとつ	子と母
	中島村	はやおきし ばあちゃんといく カブトとり	カブトとり 笑顔見たさに 下調べ	孫と祖母
	矢吹町	小さな手 ふえた家族に 皆笑顔	おじさんと言われる僕は 15歳	義姉と弟
H25	いわき市	七のだん むずかしかった 夏休み	孫の九九 響き残して 夏過ぎる	孫と祖母
	福島市	夏休み ギョウザで習う 母の味	娘との 会話では はずむ 指の先	子と母
	相馬市	母の背を見下ろす側に 早変わり	「それ持つよ」 背丈に勝る 思いやり	子と母
	西郷村	うちトマト 祖母の笑顔が つまってる	熟トマト 孫のほっぺた 思い出す	孫と祖母
	白河市	口応え 気になる 親の眉間じわ	成長に 増える心の 笑いじわ	子と父
H26	西郷村	うれしいな ペダルをこいで さあいこう	春からの 練習みのり 風になる	子と母
	玉川村	母さんに ほめられたくて おせんたく	助かるなあ あとでこっそり 干し直す	子と母
	相馬市	パパの手を ぎゅっとにぎって 山手線	夢 叶う 息子と二人 男旅	子と父
	いわき市	父 笑顔 母 直伝の ハンバーグ	気がつけば 娘の手料理 妻の味	子と父
	中島村	異国にて 家族思いし メール打つ	旅だたせ 指折りかぞえ 娘待つ	子と母
H27	喜多方市	せんたくを ばあばといっしょに パンパンと	孫 泊り 色とりどりの もの干場	孫と祖母
	田村市	わるいくせ なおしなさいと ママが言う	「そっくりよ」 祖母に言われて ママショック	子と母
	新地町	母の手は アナログ式の 体温計	赤い顔 そっと手を置き 熱を見る	子と母
	いわき市	初舞台 皆で奏でる ハーモニー	客席で 親の鼓動も フォルテシモ	子と母
	会津美里町	野馬追いに 小高の思い出 よみがえる	法螺貝の 音色我が子と 懐かしむ	子と母

「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」最優秀賞作品

年度	市町村	作品 1	作品 2	二人の関係
H28 絆部門	郡山市	弟は母ひとりじめ ぼくがまん	すまないと 手にこめなでる 月あかり	子と母
	須賀川市	父の背と 続く木道 尾瀬の空	ふり向けば 広がる 湿原子の笑顔	子と父
	矢吹町	手際よく トントン切りたい 母のよに	切れてない 胡瓜と笑いを 盛るサラダ	子と母
	鏡石町	「ガンバレ」の メモと一緒に 朝ごはん	「ありがとう」 メモと一緒に 皿洗い	子と母
	いわき市	ただいまと なんてわかるの？ お母さん	足音で いいことあった？ 今日のこと	母と子
H28 復興部門	白河市	一本松 ぼくも同じく 負けないよ	立ち姿 息子と重なる 一本松	子と母
	桑折町	やっぱりね 地元の物は おいしいね	安心を 食べるしあわせ かみしめる	子と母
	会津坂下町	五年たち 母の背たけに おいについて	五年たち ふきもみようがも 食卓へ	子と母
	只見町	只見線 未来に向かって 走り出せ	つながれと 只見の空に 汽笛鳴る	子と母
	いわき市	海の音 聞こえる心に 変化あり	海開き えがおがもどる うれしいな	姉と弟
H29 絆部門	白河市	おてつだい あわでゴシゴシ さらあらい	ありがとう あとでこっそり 二度洗い	子と母
	須賀川市	子と孫と ひ孫に やしゃご 百一歳	思い出を 語りお香が 目にしみる	子と母
	いわき市	「双子なの？」 聞かれて姉と 笑み交わす	「ちがいます」 声がそろって また笑う	妹と姉
	いわき市	ほんとうの 空は私の中にある	十五歳 ずっと何かを さがしてる	子と父
	いわき市	月遠し 一人異国で 空見上げ	子の居ない 部屋の暗さと 月明かり	子と母
H29 復興部門	川俣市	盆休み 家に帰れた みんないた	大声ではしゃぐ 息子に みな笑顔	子と母
	南相馬市	風を切る 銀緑赤の 常磐線	初めての 改札くぐる 小さな背	子と母
	須賀川市	仮設跡 父と 練習再開へ	公園の 仮設跡から 笑い声	子と母
	白河市	挫けずに 百まで生きると 笑う祖母	いつの日か 孫と帰るよ 故郷へ	孫と祖母
	会津坂下町 会津若松市	被災地を見るたび 変わる 町景色	変わらない 地元の人の あたたかさ	生徒と生徒

# 平成14年度「十七字のふれあい事業」誕生 全国初の試みとしてスタート！

「十七字のふれあい事業」は、平成14年度、子どもからお年寄りを対象に、様々な体験活動の中で共感したことを、17字で創作表現することにより、言語感覚を磨くこと、豊かな感性を醸成すること、ことばの大切さを認識することを目的として、全国初の試みとして、誕生しました。

その後、子どもたちの取り巻く環境に応じて、少しずつ趣旨、キャッチフレーズを変えながら、現在に至っています。

## 【歴代キャッチフレーズ！】

平成14年度～平成17年度

「五・七・五 世代を越えてハーモニー」

平成18年度～平成20年度

「五・七・五 わくわく体験・心と心のハーモニー」

平成21年度 「夢きずな 心をつなぐ 十七字」

平成22年度 「十七字 世代をつなぐ 架け橋に」

平成23年度 「はばたこう きずな確かめ 未来へと」

平成24年度 「ふみ出そう 新たな明日へ つづく道」

平成25年度 「十七字 つなげる想い つなぐ夢」

平成26年度 「奏でよう 十七文字で 心の和」

平成27年度 「ふれあいを 未来へつなぐ 十七字」

平成28年度 「ふれあいと 絆をつくる 十七字」

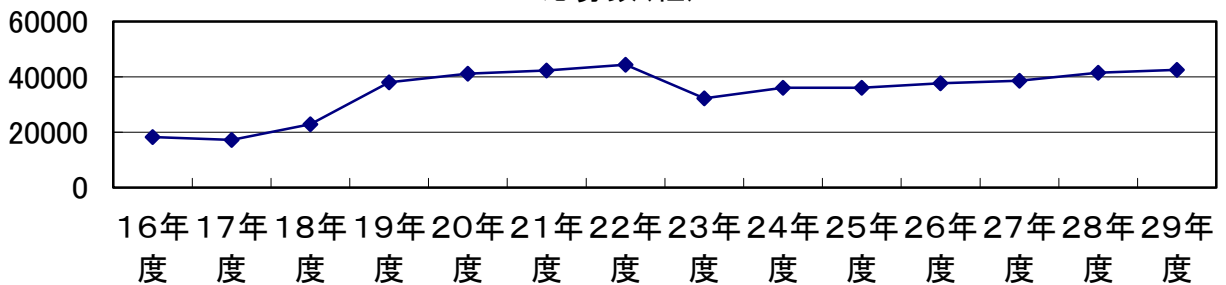
平成29年度 「未来への 絆をつなぐ 十七字」

## 【応募者数の推移】

初年度から、10,092作品という多くの作品の応募があり、その後、平成17年度に応募者総数10万、22年度には50万人、平成23年度は震災により応募者が減ったものの、平成25年度には70万人を達成し、昨年度、平成28年度には、これまでの共通体験を表現する「絆部門」に加え、震災時の体験やふくしまへの想いなどを表現する部門である「復興部門」を創設し、二部門となりました。

そして、開始から16年目を迎えた今年度（平成29年度）応募者総数が100万人を突破するという記念すべき年となりました。

応募数(組)



年度	14	15	16	17	18	19	20	21
組	10,092	16,008	18,241	17,246	22,885	38,024	41,180	42,283
年度	22	23	24	25	26	27	28	29
組	44,387	32,261	36,037	36,055	37,749	38,594	41,502	42,575